

授業コード	科目名	助産管理学 Introduction to Midwifery Management			担当教員	小西清美、宮里直美、 川満恵子、県立北部病院師長
助 122					E-mail	konishi@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	通年	6	新研 419	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
<p>助産師は安全で快適に女性、子どもとその家族が妊娠・出産・育児期を過ごせるように助産ケアを提供する役割がある。本科目では、助産業務の管理および助産所の運営に必要な管理の基本とマネジメントを理解し、助産師業務を評価・調整する基礎的な知識を修得する。助産所運営ガイドライン、医療安全対策の実際を理解し、チーム医療や施設と地域連携における助産師の役割を考察する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産業務管理の基本とマネジメントを理解する。 2. 助産業務遂行に関する法令について理解する。 3. 病院施設における助産業務管理について理解する。 4. 安全管理対策（リスクマネジメント・感染対策・防災）を理解する。 5. 助産所における助産業務管理について理解する。 6. 助産所の特徴や経営の実際について理解する。 7. 周産期医療システムの実際について理解し、チーム医療や施設と地域の連携について考察ができる。 						
3. 授業計画と内容						
<p>第1回 ガイダンス、助産管理学とは、助産管理とマネジメント</p> <p>第2回 助産管理の概念、助産と医療経済 関連法規と助産師の義務・責任</p> <p>第3回 産科における医療事故、法的責務、助産業務ガイドライン、</p> <p>第4回 病院における助産業務管理（周産期管理システムと助産業務管理、新生児集中治療室 母体搬送システム、オープンシステムなど）</p> <p>第5回 病院における助産業務管理（人材育成、労務管理、外来管理院内助産システム等）</p> <p>第6回 病院における助産業務管理（リスクマネジメントの基本、産科における医療事故、法的責務、 感染対策・安全管理など）</p> <p>第7回 病院における助産業務管理（地域との連携、書類管理、財務管理、業務の質管理など）</p> <p>第8回 災害時の対応と助産ケア</p> <p>第9回 助産所とは（宮里）</p> <p>第10回 助産所における業務管理・運営（助産業務とガイドラインに基づく運営管理、医療安全）（川満）</p> <p>第11回 助産所における経営（助産所の特徴や経営の実際、開業に関する法規、地域連携など）（川満）</p> <p>第12-13回 助産と経営（沖縄県未来センターの開設と実際、助産所の環境・設備・備品など）（宮里）</p> <p>第14回 無床助産所の業務管理・運営について</p> <p>第15回 どのような助産所を開設したいか</p> <p>第16回 期末試験</p>						
4. テキスト・参考文献						
<ul style="list-style-type: none"> ・助産学講座 1 基礎助産学 1 助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編集 医学書院 ・助産学講座 10 助産管理 我部山キヨ子編集 医学書院 ・「助産業務ガイドライン」 日本助産師会 ・「産婦人科診療ガイドライン」日本産婦人科学会／日本産婦人科医会 						

・「助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全」 成田伸編 日本看護協会出版会
この他の参考図書は、随時紹介する。

5. 準備学習

予習をして授業に臨むこと。

6. 成績評価の方法

期末試験	80点
活動状況（授業態度、授業へのコミットメント等）	20点
合計	100点

7. 履修の条件

前期の科目を全て履修していること。

8. その他

特になし

授業コード	科目名	国際母子保健学 International Maternal and Child Health			担当教員	阿部正子、横川裕美子 橋本麻由美（学外）
助 123		単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室
1	1	通年	6	新棟 423	月曜日 6 限（teams でも可）	
1. 授業の概要						
<p>世界の母子保健の現状と課題を国や地域の社会状況、文化の違いとともに理解する。国際母子保健に関わる国際機関、政府関係機関、JICA、NGO の役割および助産分野における国際協力の在り方について学習する。開発途上国や在日外国人など母子を取り巻く地域社会の環境・健康問題と助産師の役割、使命について国際的な視野から学ぶ。また、文化、価値観を踏まえた国際活動の具体例を通して検討する。</p> <p>*授業形態（遠隔授業または対面授業）等、予定を大きく変更する場合は事前に周知する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 開発途上国や先進国における母子保健の現状を統計データから説明できる 2. 国内・国外での国際協力活動の実際を知り、文化を尊重した保健活動や助産の在り方を考察できる 3. 国際保健医療プロジェクトの基本的概念を説明できる 4. 開発途上国における母子保健のニーズと助産師の役割・活動を関連づけて説明できる 						
3. 授業計画と内容						
<p>第1回 国際的な母子保健の現状：母子保健統計、社会情勢、文化的背景（阿部）</p> <p>第2回 文化背景を尊重した看護ケア理論（横川）</p> <p>第3回 在日外国人の母子保健（横川）</p> <p>第4回 世界の出産と文化（阿部）</p> <p>第5回 国際母子保健の潮流と動向①（橋本）</p> <p>第6回 国際母子保健の潮流と動向②（橋本）</p> <p>第7回 開発途上国における助産活動の展開①（橋本）</p> <p>第8回 開発途上国における助産活動の展開②（橋本）</p>						
4. テキスト・参考文献						
<p>助産学講座1 助産学概論，医学書院</p> <p>助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健，医学書院</p> <p>*参考文献については講義時提示する</p>						
5. 準備学習						
<p>事前学習：授業計画の内容をもとに、各自自習した上で授業に臨むこと。</p> <p>事後学習：配布資料を復習する。</p>						
6. 成績評価の方法						
<ol style="list-style-type: none"> 1) クラスへの参加度（授業へのコミットメント、問題発見、プレゼンテーション等）40点 2) 課題レポート60点 <p style="text-align: right;">合計 100点</p>						
7. 履修の条件						
特になし						
8. その他						
授業日の詳細は授業時に説明する。						

授業コード	科目名	助産学研究 Nursing Research in Midwifery			担当教員	小西清美、阿部正子、 金城壽子、長嶺絵里子、 大浦早智
助 124					E-mail	konishi@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	通年	6	新研 419	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
<p>助産師が日常、経験や慣習的に行っているケアの効果のエビデンスについて、文献から収集し、意図的で効果的な助産実践につなげるための研究的視点を修得する。また継続事例に行った援助を研究的視点で考察を深めるプロセスについて学習する。研究は、研究領域の文献レビュー、テーマの選択、研究目的、概念枠組みの明確化、研究計画の立案、研究方法の選択、データ収集、結果の分析、考察など、研究のプロセスに基づき実施し、論文を作成する。また、研究発表を実施し、他者の研究成果を聞くことによりEBMに基づいた助産実践の重要性を理解する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期に関連した文献検討を通じて、助産ケアのエビデンスや知見を得る。 2. 研究の実際を通して、ケアのエビデンスや知見を得る。 3. 研究のプロセスをたどることができる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 文献研究の意義と研究方法について理解する。 ② 文献クリティークの視点を述べることができる。 ③ 分娩期を中心とした助産実践を研究的視点で多角的に分析・解釈できる。 ④ 研究論文が作成できる。 4. 助産ケアの妥当性・課題を明確にできる。 						
3. 授業計画と内容						
<p>1-10 回では、①周産期に関連した文献検討を通じて、助産ケアのエビデンスや知見を得る。②文献を実際にクリティークすることで、研究活動における文献の活用直接的に役立て、文献を批判的に読むということについて理解を深める。③研究の基礎的な理論としての量的研究、質的研究を再学習し、助産実践の改善・向上を図るための基礎学習としたい。研究方法では、研究のプロセスを理解し、研究計画書作成として、個人で助産領域の関心あるテーマを考え、研究方法をイメージし研究の可能性を考えていく。この学習を基礎として11回以降は、助産学研究の実際では、助産実習の経験の中から興味関心のある課題・疑問を見つけ、問題点・課題を明確にし、助産ケアのエビデンスに関する文献的研究を実施し、研究的視点で考察を深めるプロセスについて学習する。</p> <p>第1回 ガイダンス：助産師と研究、助産師が活用できるエビデンス、推薦図書、オフィスアワーの活用法等、論文作成にあたっての説明</p> <p>第2回 量的研究のプロセス</p> <p>第3回 文献検索・文献検討（図書館の活用法）</p> <p>第4回 量的研究：文献クリティーク</p> <p>第5回 質的研究、事例研究（阿部）</p> <p>第6回 質的研究：文献クリティーク（阿部）</p> <p>第7回 文献研究：文献クリティーク</p> <p>第8回 文献検討(英文抄読)①：(金城・大浦)</p>						

<p>第9回 文献検討(英文抄読)②：(金城・大浦)</p> <p>周産期のケアやウィメンズヘルスに関連した海外の文献検討を通じて、助産ケアのエビデンスや知見を得る。</p> <p>第10回 文献的研究に関する研究計画書作成、抄録作成・発表に向けて</p> <p>【後学期】</p> <p>第11-21回 文献的研究の論文作成</p> <p>・文献的研究は、多数の文献レビューを通して、研究的視点で論文をまとめる。</p> <p>第22-23回 助産学研究の発表会、まとめ・評価</p>						
<p>4. テキスト・参考文献</p>						
<p>我部山キヨ子他編「助産学概論 第5版」(助産学講座1)、医学書院。</p> <p>*この他の参考図書は、随時紹介する。</p>						
<p>5. 準備学習</p>						
<p>文献検討では、必ず文献を読み、課題を提出する。</p>						
<p>6. 成績評価の方法</p>						
<table> <tr> <td>レポート課題(論文作成)</td> <td>80点</td> </tr> <tr> <td>活動状況(授業態度、授業へのコミットメント等)</td> <td>20点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table>	レポート課題(論文作成)	80点	活動状況(授業態度、授業へのコミットメント等)	20点	合計	100点
レポート課題(論文作成)	80点					
活動状況(授業態度、授業へのコミットメント等)	20点					
合計	100点					
<p>7. 履修の条件</p>						
<p>特になし</p>						
<p>8. その他</p>						
<p>担当教員の指導を受けて、研究計画書作成、文献検討、論文作成、論文発表まで計画的に進めていく。</p>						